

報道機関各位

沖縄県立博物館・美術館管理事務所

貝塚時代のくらしから沖縄の食文化のルーツを紐解く！

博物館企画展

海とジュゴンと貝塚人 ～貝塚が語る 9000 年のくらし～

沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）は、2021 年 10 月 15 日（金）から博物館企画展「海とジュゴンと貝塚人 ～貝塚が語る 9000 年のくらし～」を開催いたします（会期 12 月 5 日まで）。

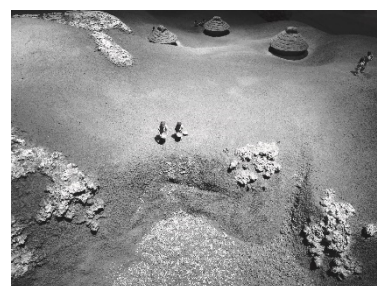
海に囲まれた沖縄の島々で、人々は古来より海の恵みを利用して豊かな海洋文化を育んできました。沖縄には、昔の人々が捨てた貝殻が堆積した遺跡としての貝塚が 354 カ所あり、貝塚数は全国の中でも千葉県（744 カ所）、茨城県（376 カ所）に次いで第 3 位です。最も古い貝塚は藪地洞穴遺跡（うるま市）で見つかった約 1 万年前のもので、その後 11 世紀に農耕が始まるまで、9000 年もの長きにわたって、海と人々が調和した貝塚文化のエコシステムが維持されました。貝塚からは当時の人々が食べた魚介類やウミガメ、イノシシの骨、そして時には人骨が出土することもあります。また、現在絶滅の危機にあるジュゴンの骨も多く出土しており、貝塚人の暮らしぶりをうかがい知ることができます。

本展覧会では、貝塚にまつわる出土品とその調査研究成果を展示公開し、貝塚が語る海と人との関わりをわかりやすく紹介します。

《展示構成》

■第 1 章 貝塚の謎

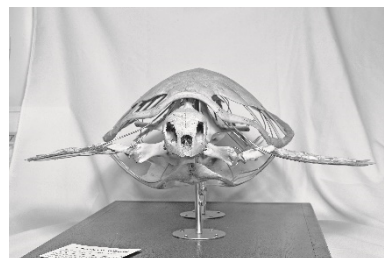
貝塚とは何か。貝塚人とは誰なのか？貝塚をめぐる謎を紐とき、人類史のアーカイブとしての貝塚について、わかりやすく紹介します。



古我知原貝塚（うるま市）模型

■第 2 章 ウミサチ（海幸）の人類史

人類は食物連鎖の頂点に立ち、さまざまなものを食べてきました。中でもジュゴンはウミサチ（海幸）の頂点に位置し、食べものとしてだけでなく、当時の人々の精神文化にも大きな影響を与えています。



ウミガメ骨格

■第3章 貝塚を掘る

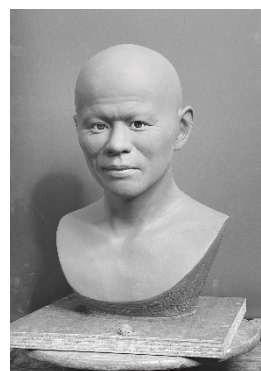
約100年前に菘堂貝塚（北中城村）や伊波貝塚（うるま市）から発見された出土品をはじめ、戦前・戦後に行われた沖縄の貝塚調査の様子と出土品を紹介します。



菘堂式土器（菘堂貝塚）

■第4章 サイエンスで見る海洋文化史

貝塚の貝や遺物の科学分析を通して、古代の気候や環境、物資の流通や食べものの移り変わりに迫るとともに、科学的手法にもとづく貝塚人の顔貌復元について紹介します。



武芸洞人の頭骨から復顔した模型→
（制作途中）

【開催概要】

展覧会名：令和3年度 博物館企画展「海とジュゴンと貝塚人～貝塚が語る9000年の暮らし～」

会 期：2021年10月15日（金）～12月5日（日）

会 場：博物館特別展示室1・2

主 催：沖縄県立博物館・美術館

観 覧 料：一般1,000円（800円）、高校・大学生500円（400円）、
小・中学生200円（160円）

※（ ）内は前売および20名以上の団体料金

開館時間：9：00～18：00（金・土は20：00）

休 館 日：毎週月曜日



<お問い合わせ先>

沖縄県立博物館・美術館指定管理者 （一財）沖縄美ら島財団

企画班 広報営業担当（福治・金城） TEL 098-941-1232/FAX 098-941-2392